

入間市子どもの生活に関する調査結果報告書 概要版

入間市では、支援が必要な子育て家庭の孤立を防ぎ、世代を超えた貧困の連鎖を断ち切ることを目的に、子ども・子育て家庭の生活実態を把握し、市の実情に応じた施策を講じるため、子どもの生活に関する調査を実施しました。この冊子は、調査結果報告書を抜粋したものです。

※ 調査結果報告書は、市 HP またはこども支援課までお問い合わせください。

平成31年3月発行：入間市 こども支援部 こども支援課

協力：埼玉県立大学保健医療福祉学部社会福祉子ども学科 教授 長友祐三

1 調査の概要

| | |
|------|---|
| 調査対象 | 入間市内のすべての小学校、中学校に在籍する、小学5年生および中学2年生のいる世帯の保護者と該当する児童 |
| 調査方法 | 児童、生徒に対して、学級担任を通じて配布・回収 |
| 調査期間 | 平成30年7月5日～7月18日まで |

| | | 小学5年生のいる世帯 | 中学2年生のいる世帯 |
|---------------------------|-----|------------|------------|
| 配布数 | | 1,285 世帯 | 1,219 世帯 |
| 回収数 | 児童 | 1,021 件 | 960 件 |
| | 保護者 | 1,022 件 | 960 件 |
| 有効回答数 (児童・保護者共に回答した世帯) | | 1,020 世帯 | 959 世帯 |
| 回答率 | | 79.4% | 78.7% |

2 分析軸の設定

(1) 生活困難層を軸とした分析

要素1 生活困難層の判定方法

| 世帯員 | 分類Ⅰ | 分類Ⅱ | 分類Ⅲ +要素2が 2つ以上 生活困難層Ⅲ / +要素2が 1つ以下 生活困難層Ⅳ | 分類Ⅳ | 分類Ⅴ | 分類Ⅵ | 参考国基準 |
|-----|---------|---------|--|---------|---------|---------|-------|
| | 生活困難層Ⅰ | 生活困難層Ⅱ | 生活困難層Ⅳ | 生活困難層Ⅴ | 非生活困難層 | 非生活困難層 | |
| 1人 | 60万円未満 | 120万円未満 | 180万円未満 | 240万円未満 | 300万円未満 | 300万円以上 | 122万円 |
| 2人 | 85万円未満 | 175万円未満 | 260万円未満 | 345万円未満 | 430万円未満 | 430万円以上 | 173万円 |
| 3人 | 105万円未満 | 210万円未満 | 315万円未満 | 420万円未満 | 525万円未満 | 525万円以上 | 211万円 |
| 4人 | 120万円未満 | 245万円未満 | 365万円未満 | 485万円未満 | 605万円未満 | 605万円以上 | 244万円 |
| 5人 | 135万円未満 | 275万円未満 | 410万円未満 | 545万円未満 | 680万円未満 | 680万円以上 | 273万円 |
| 6人 | 150万円未満 | 300万円未満 | 450万円未満 | 600万円未満 | 750万円未満 | 750万円以上 | 299万円 |
| 7人 | 160万円未満 | 325万円未満 | 485万円未満 | 645万円未満 | 805万円未満 | 805万円以上 | 323万円 |
| 8人 | 175万円未満 | 345万円未満 | 520万円未満 | 695万円未満 | 870万円未満 | 870万円以上 | 345万円 |
| 9人 | 185万円未満 | 365万円未満 | 550万円未満 | 735万円未満 | 920万円未満 | 920万円以上 | 366万円 |

※ 金額は可処分所得の額

要素2

◆ 過去1年間に買えなかった経験、支払えなかった経験、以下の7項目のうち2項目以上該当

- ① 食料 ② 衣類 ③ 電話料金 ④ 電気料金 ⑤ ガス料金
- ⑥ 水道料金 ⑦ 家賃

※ ① 食料 ② 衣類は「よくあった」「ときどきあった」のいずれかの場合

比較検討は 全体、生活困難層、中間層、非該当層別に行いました。

生活困難層判定（3区分）

| | |
|-------|--|
| 生活困難層 | 生活困難層Ⅰ(要素1)+生活困難層Ⅱ(要素1)+生活困難層Ⅲ(要素1+要素2)の世帯 |
| 中間層 | 生活困難層Ⅳ(要素1)+生活困難層Ⅴの世帯 |
| 非該当層 | 「生活困難層」「中間層」以外の世帯 |

上記の判定に基づき3つの層に分類を行いました。

(単位 上段；件数、下段、%)

小学5年生調査

| 調査数 | 生活困難層 | 中間層 | 非該当層 |
|-------|-------|------|------|
| 1,020 | 87 | 251 | 682 |
| 100.0 | 8.5 | 24.6 | 66.9 |

中学2年生調査

| 調査数 | 生活困難層 | 中間層 | 非該当層 |
|-------|-------|------|------|
| 959 | 67 | 217 | 675 |
| 100.0 | 7.0 | 22.6 | 70.4 |

全体

| 調査数 | 生活困難層 | 中間層 | 非該当層 |
|-------|-------|------|-------|
| 1,979 | 154 | 468 | 1,357 |
| 100.0 | 7.8 | 23.6 | 68.6 |

(2) 世帯構成を軸とした分析

世帯類型別の「ひとり親(母親)」の表記は、ひとり親(母親のみ世帯)世帯のことを指します。

(単位 上段；件数、下段、%)

世帯類型別人数

| 調査数 | 生活困難層 ひとり親(母親のみ)世帯 | ひとり親(母親のみ)世帯 非生活困難層 | 両親同居(父親のみ)世帯 生活困難層(含む) | 両親同居(父親のみ)世帯 非生活困難層(含む) | その他の世帯 | 無回答 |
|-------|-----------------------|------------------------|---------------------------|----------------------------|--------|-----|
| 1,979 | 78 | 134 | 67 | 1,626 | 34 | 40 |
| 100.0 | 3.9 | 6.8 | 3.4 | 82.2 | 1.7 | 2.0 |

| 調査数 | 生活困難層 ひとり親(母親のみ)世帯 | ひとり親(母親のみ)世帯 非生活困難層 |
|-------|-----------------------|------------------------|
| 212 | 78 | 134 |
| 100.0 | 36.8 | 63.2 |

| 調査数 | 両親同居(父親のみ)世帯 生活困難層(含む) | 両親同居(父親のみ)世帯 非生活困難層 |
|-------|---------------------------|------------------------|
| 1,693 | 67 | 1,626 |
| 100.0 | 4.0 | 96.0 |

ひとり親(母親のみ)世帯の方が両親同居(父親のみ)世帯に比べて顕著に生活困難度が高いという傾向が見られます。

3 主な調査結果

(1) 生活困難の状況

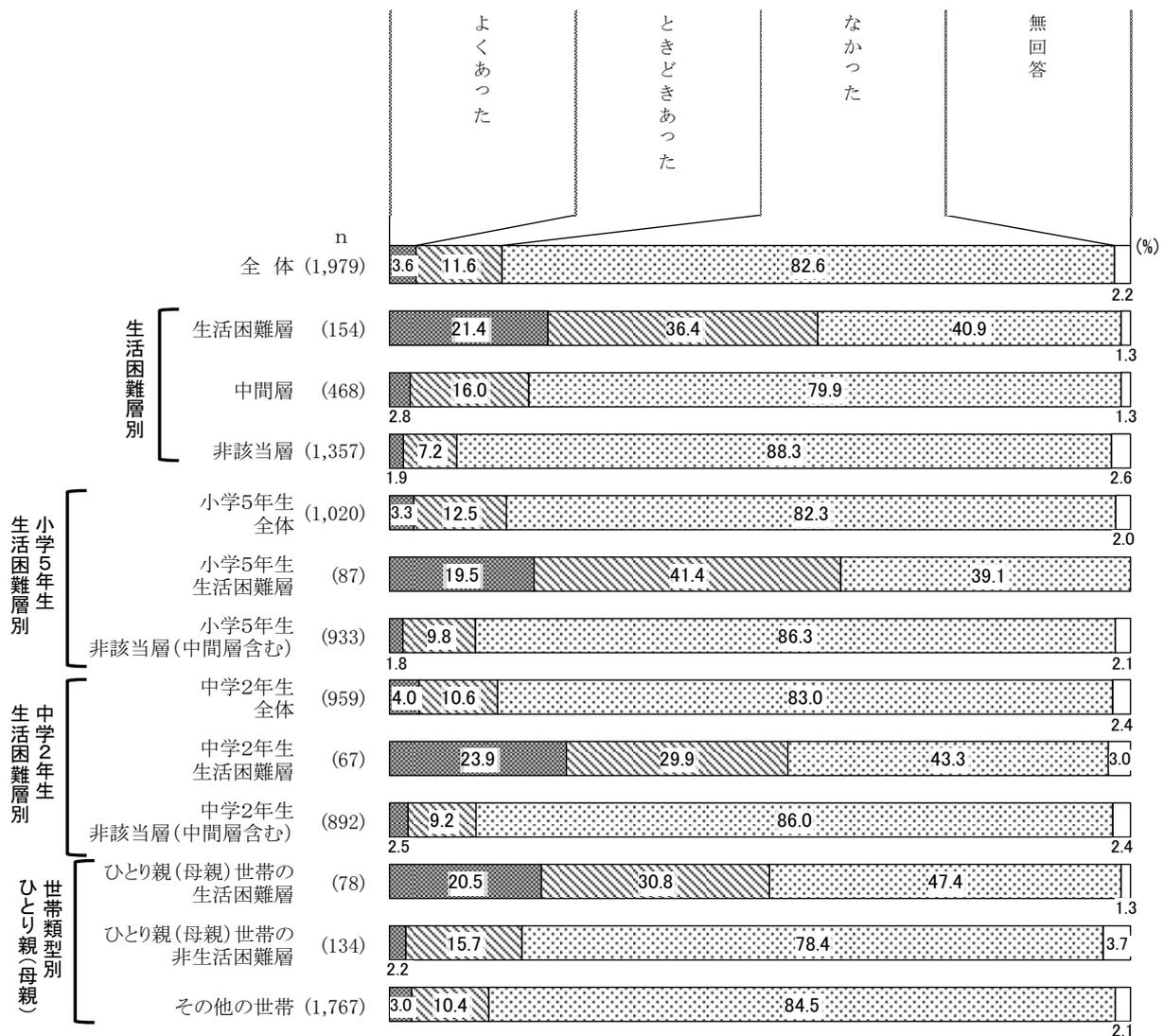
あなたの家庭では、過去1年間の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料または衣類が買えないことがありましたか。

(小学5年生 中学2年生 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

過去1年間に経済的な理由で食料または衣類が買えなかった経験が「よくあった」「ときどきあった」と回答した保護者の割合は、全体では15.2%、生活困難層が57.8%となっています。子どもの年齢別にみると小学5年生は全体の15.8%に対して生活困難層は60.9%、中学2年生は全体の14.6%に対して生活困難層は53.8%となっており、生活が困窮すると食料や衣類の必要品が買えなかった経験があると回答した保護者の割合が高くなっています。

世帯類型別にみると、ひとり親(母親)世帯の生活困難層では「よくあった」「ときどきあった」と回答した保護者の割合が51.3%に対して、ひとり親(母親)世帯の非生活困難層では17.9%と同様の傾向がみられます。

図表1-1 経済的困窮による必要品が買えなかった経験



あなたが持っているもの、使うことができるものを教えてください

(小学5年生 中学2年生 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

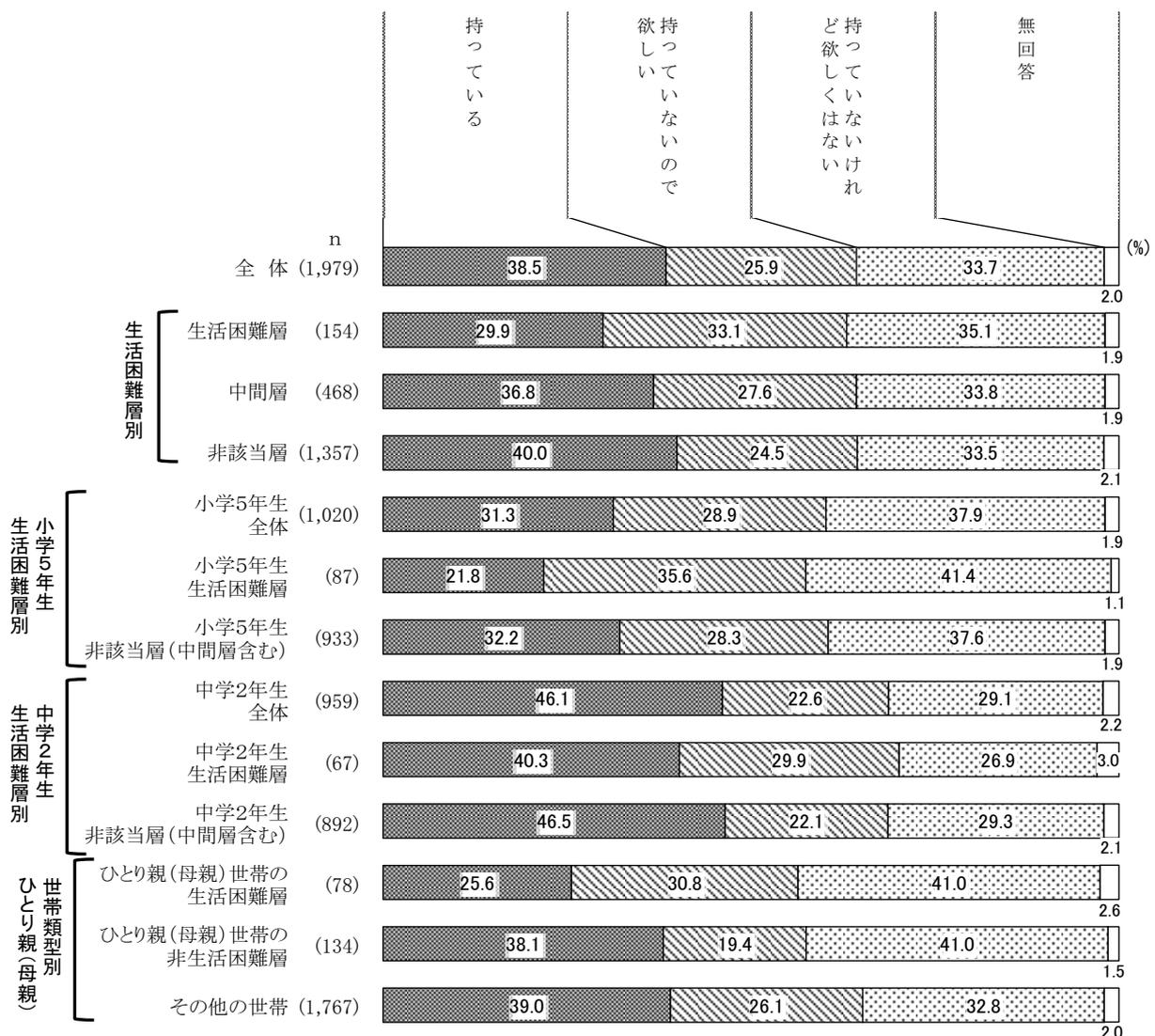
子ども自身に自分の使うことのできる品物などの所有状況をたずねたところ、本や雑誌・マンガやおもちゃ・ゲーム機、服やおこづかいでは生活困難の割合による違いは見られませんが、それ以外の品物では生活困難層のほうが非該当層よりも「持っている」割合が低くなっています。

特に自分の使う部屋やインターネットにつながるパソコンは生活困難層と非該当層の間に10ポイント程度の差がみられます。また、これらは子どもの年齢が上がるにつれて「持っている」割合が高くなっています。

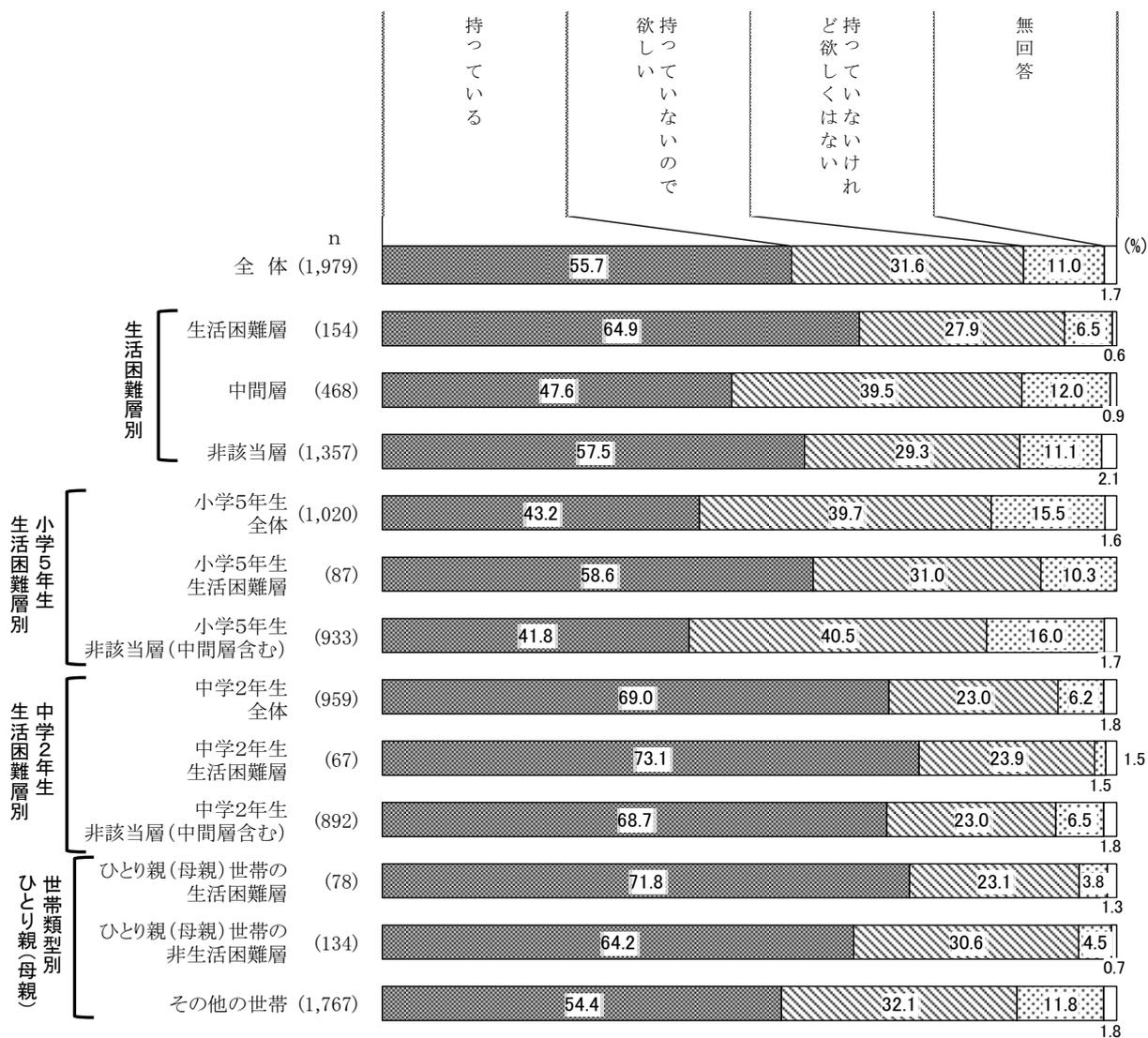
世帯類型別にみると、ひとり親(母親)世帯では、生活困難層と非生活困難層では10ポイント以上の差がみられます。

一方で「携帯電話・スマートフォン」では生活困難層のほうが非該当層よりも「持っている」割合が高くなっています。年齢別にみると、中学2年生は生活困難層と非該当層との「持っている」割合の差は小さいですが、小学5年生では差が大きくなっています。

図表1-2 自分の持ちものと使えるもの インターネットにつながるパソコン
(兄弟姉妹との共用含む)



図表 1-3 自分の持ちものと使えるもの 携帯電話・スマートフォン

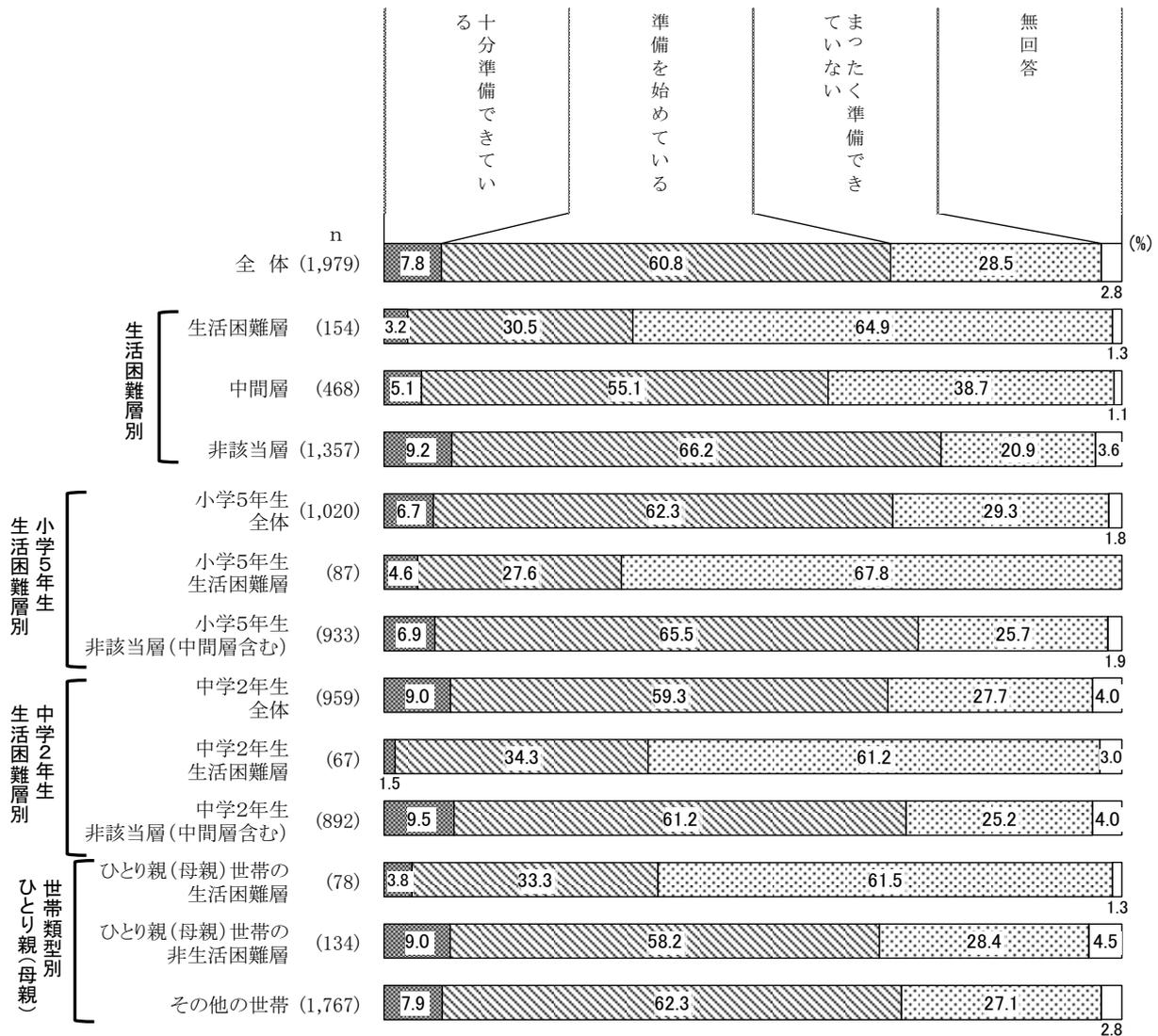


今後、教育を受けさせるための、お金の準備はできていますか。

(小学5年生 中学2年生 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

今後の教育資金の準備状態をたずねたところ、「準備を始めている」が60.8%と高く、「全く準備できていない」は28.5%です。生活困難層では「全く準備できていない」が64.9%と高くなっています。小学5年生と中学2年生では年齢による違いは見られません。

図表1-4 教育資金の準備



あなたの家庭の現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。

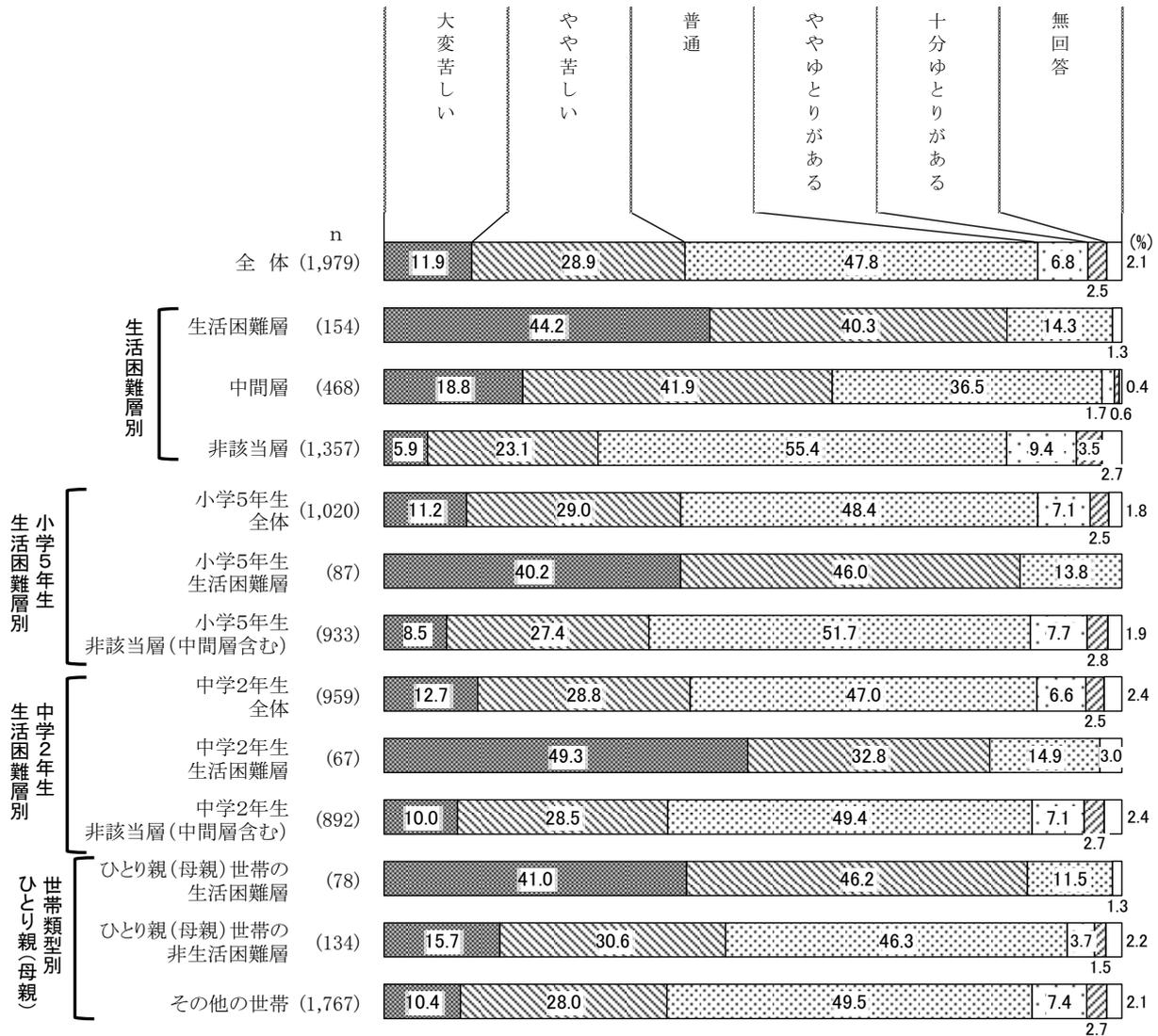
(小学5年生 中学2年生 **小学5年生保護者** **中学2年生保護者**)

総合的な家庭の暮らしの状況をたずねたところ、生活が困難になるほど「大変苦しい」「やや苦しい」の割合が高くなっています。

子どもの年齢でみると小学5年生、中学2年生共に生活困難層は非生活困難層と比べて「大変苦しい」「やや苦しい」の割合が高くなっています。

世帯類型別でみるとひとり親(母親)世帯でも生活困難層は非生活困難層と比べて「大変苦しい」「やや苦しい」の割合が高くなっており、生活困難層の「大変苦しい」「やや苦しい」の合計は87.2%と非常に高くなっています。

図表1-5 暮らしの状況



お子さんのお母さんは、1週間のうち、どのくらい仕事をしていますか。

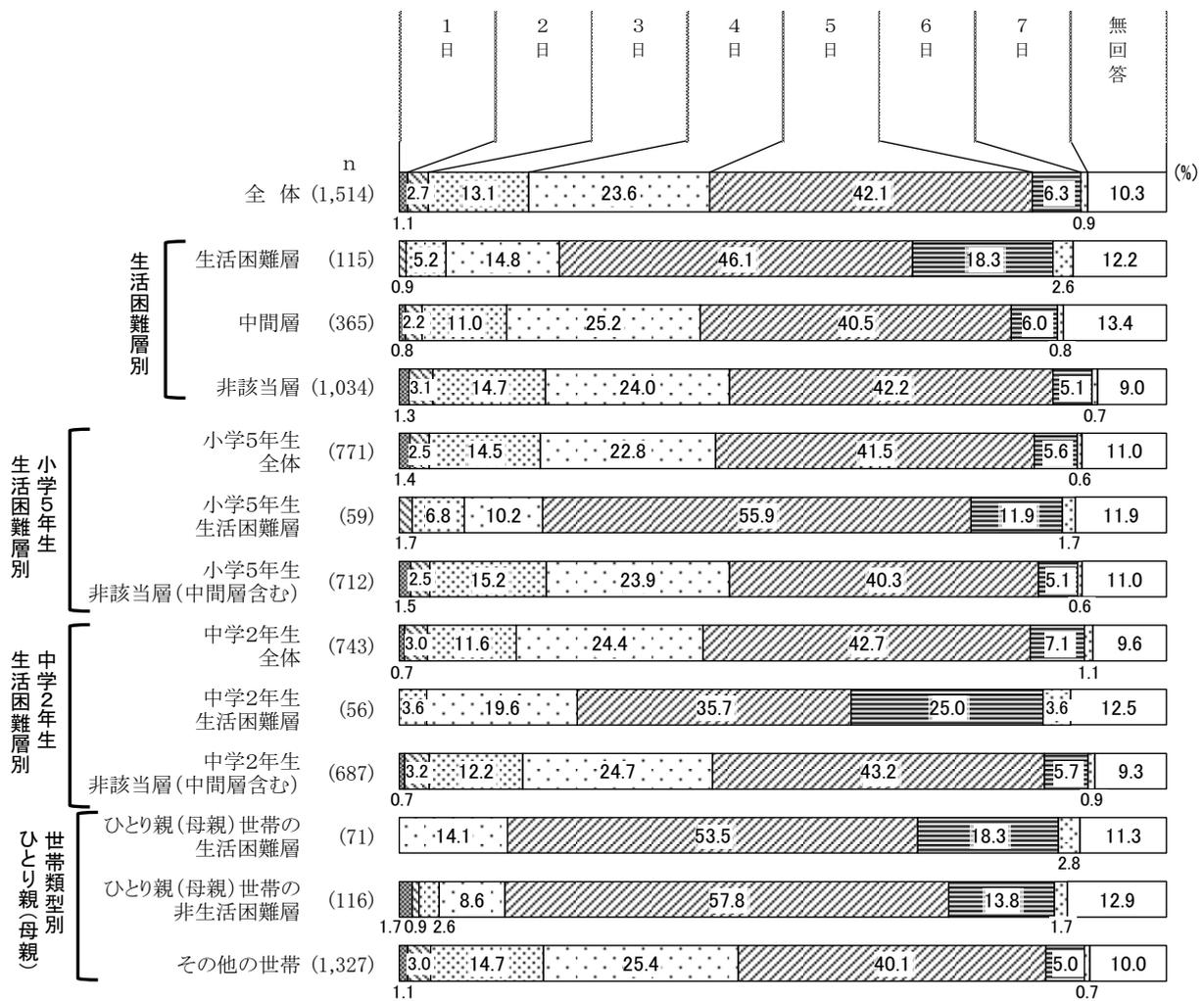
(小学5年生 中学2年生 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

仕事をしている母親に1週間の就労日数をたずねたところ、生活が困難になるほど「1日」～「4日」の割合が低く、「6日」の割合が高くなっています。

子どもの年齢でみると小学5年生、中学2年生共に生活困難層は「6日」の割合が高く、とくに中学2年生は25.0%と高くなっています。

世帯類型別でみるとひとり親(母親)世帯では生活困難層と非生活困難層で「6日」の割合の差は小さくなっています。

図表1-6 母親の週あたりの就労日数



お子さんのお母さんは、1日あたり平均何時間ぐらい仕事をしていますか。

※ 複数のお仕事をしている場合は合わせた時間数をお答えください。

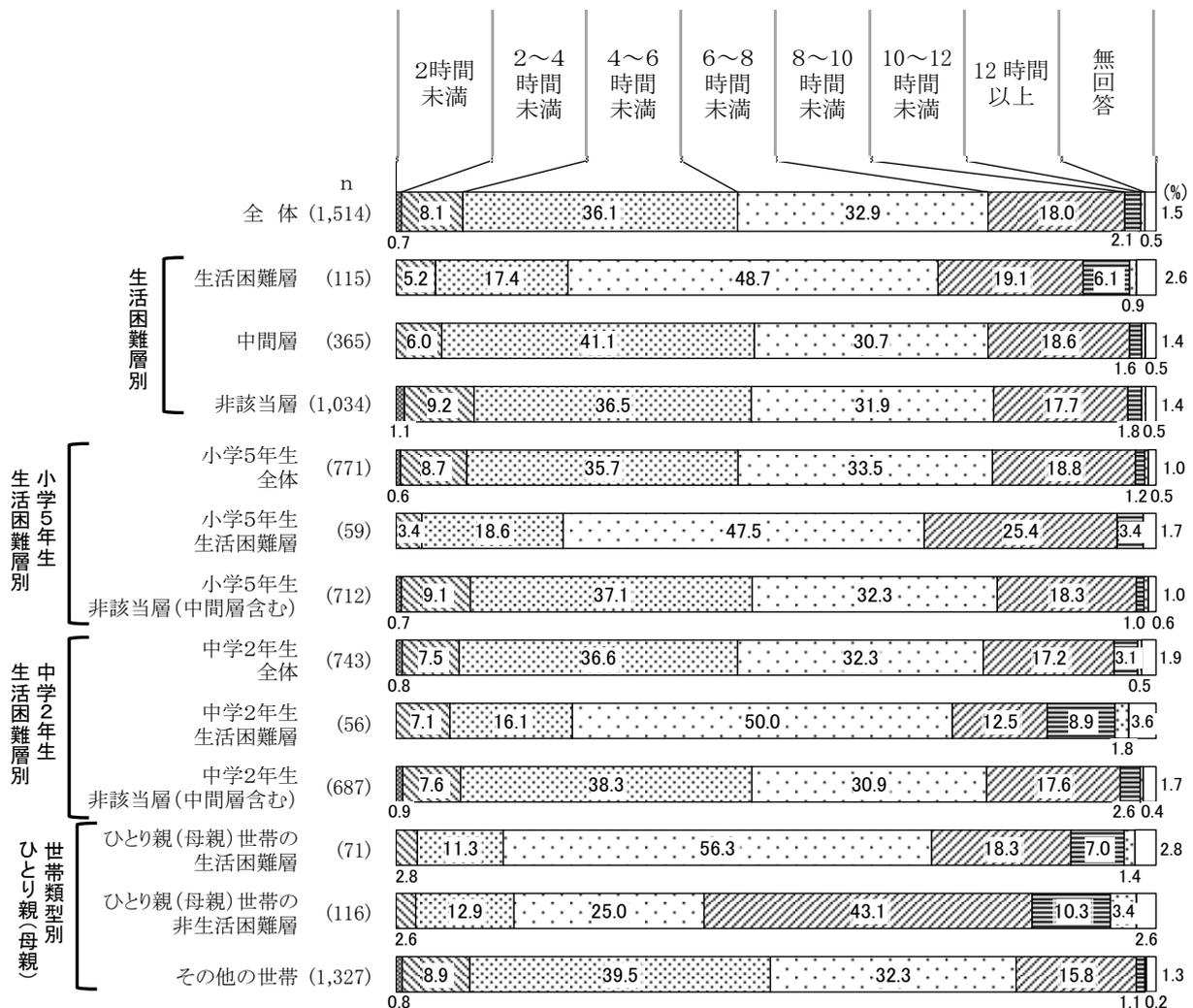
(小学5年生 中学2年生 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

仕事をしている母親に1日あたりの就労時間をたずねたところ、生活困難層は「4～6時間未満」の割合が低く、「6～8時間未満」の割合が高くなっています。

子どもの年齢でみると小学5年生、中学2年生共に同様の傾向がみられますが、中学2年生の生活困難層では「10～12時間未満」の割合が8.9%と高くなっています。

世帯類型別でみるとひとり親(母親)世帯の生活困難層は「6～8時間未満」の割合が56.3%と高いですが、非生活困難層は「8～10時間未満」の割合が43.1%と高くなっています。

図表1-7 母親の1日あたりの就労時間(平均)



お子さんのお父さんは、1週間のうち、どのくらい仕事をしていますか。

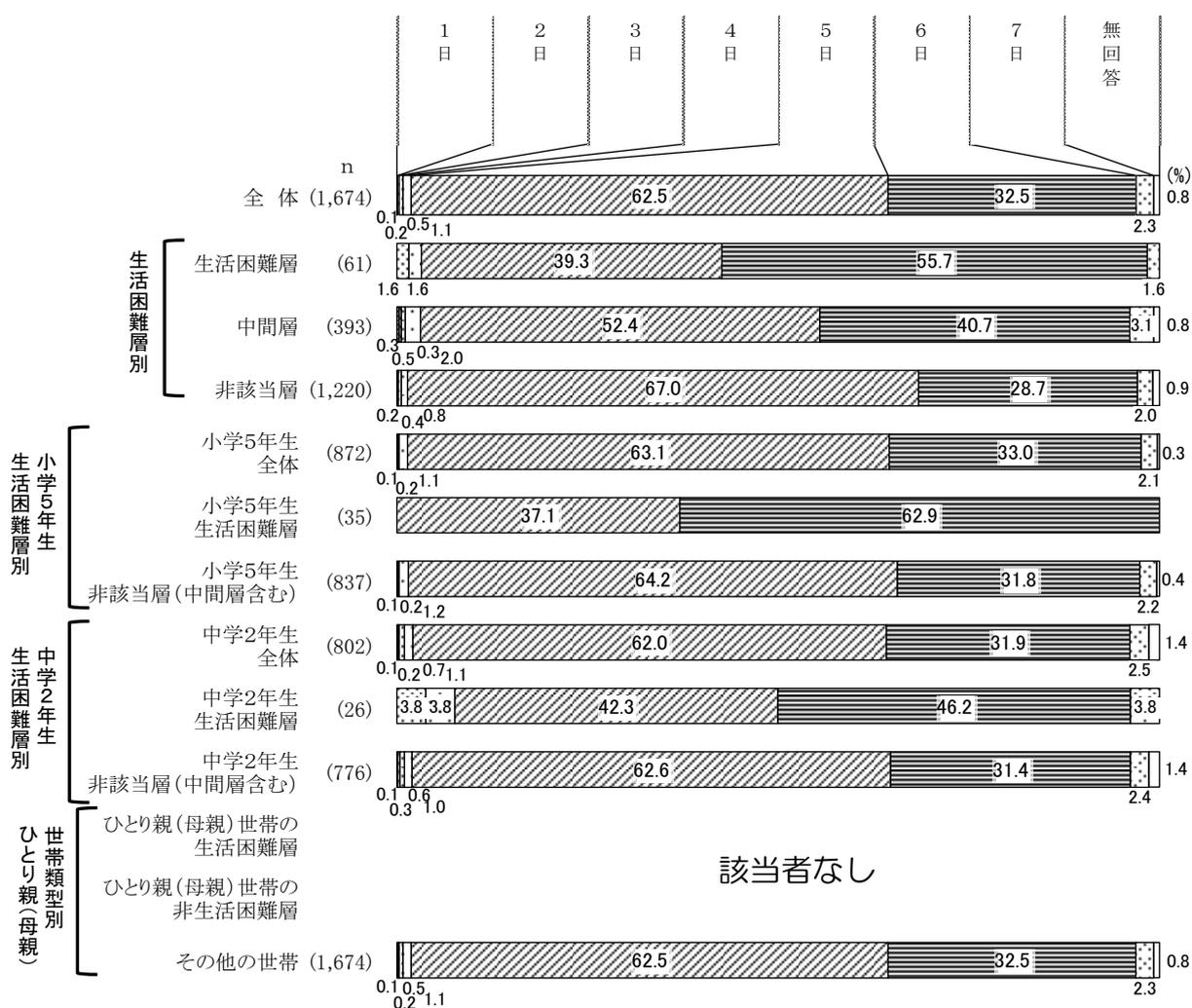
(小学5年生 中学2年生 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

仕事をしている父親に1週間の就労日数をたずねたところ、全体では「5日」62.5%と最も高く次いで「6日」が32.5%と高いですが、生活が困難になるほど「6日」の割合が高くなっています。

子どもの年齢で見ると「6日」の割合は小学5年生の生活困難層では62.9%と高いですが、中学2年生では46.2%となっています。

ひとり親(母親)世帯では父親の就労に関する回答はありません。

図表1-8 父親の週あたりの就労日数



お子さんのお父さんは、1日あたり平均何時間ぐらい仕事をしていますか。

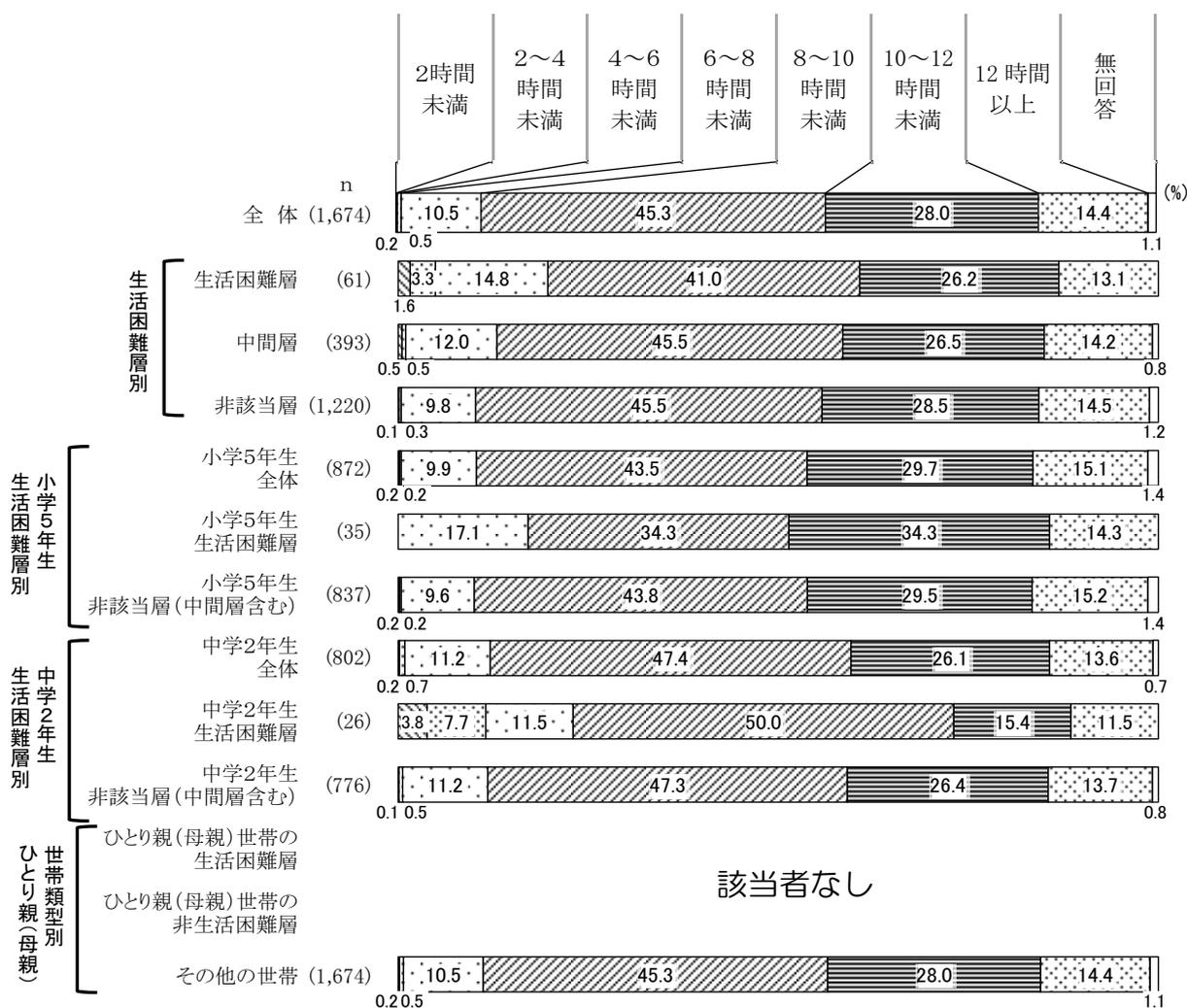
※ 複数のお仕事をしている場合は合わせた時間数をお答えください。

(小学5年生 中学2年生 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

仕事をしている父親に1日あたりの就労時間をたずねたところ、「8～10時間未満」が最も高く、次いで「10～12時間未満」となっており、生活困難層による違いは見られませんが、中学2年生の生活困難層は「4～6時間未満」の割合が7.7%と他の年齢、生活困難層区分と比べて高くなっています。

ひとり親(母親)世帯では父親の就労に関する回答はありません。

図表1-9 父親の1日あたりの就労時間(平均)



(2) 子どもの学び

あなたは、学校からの帰宅後、次の事柄について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。

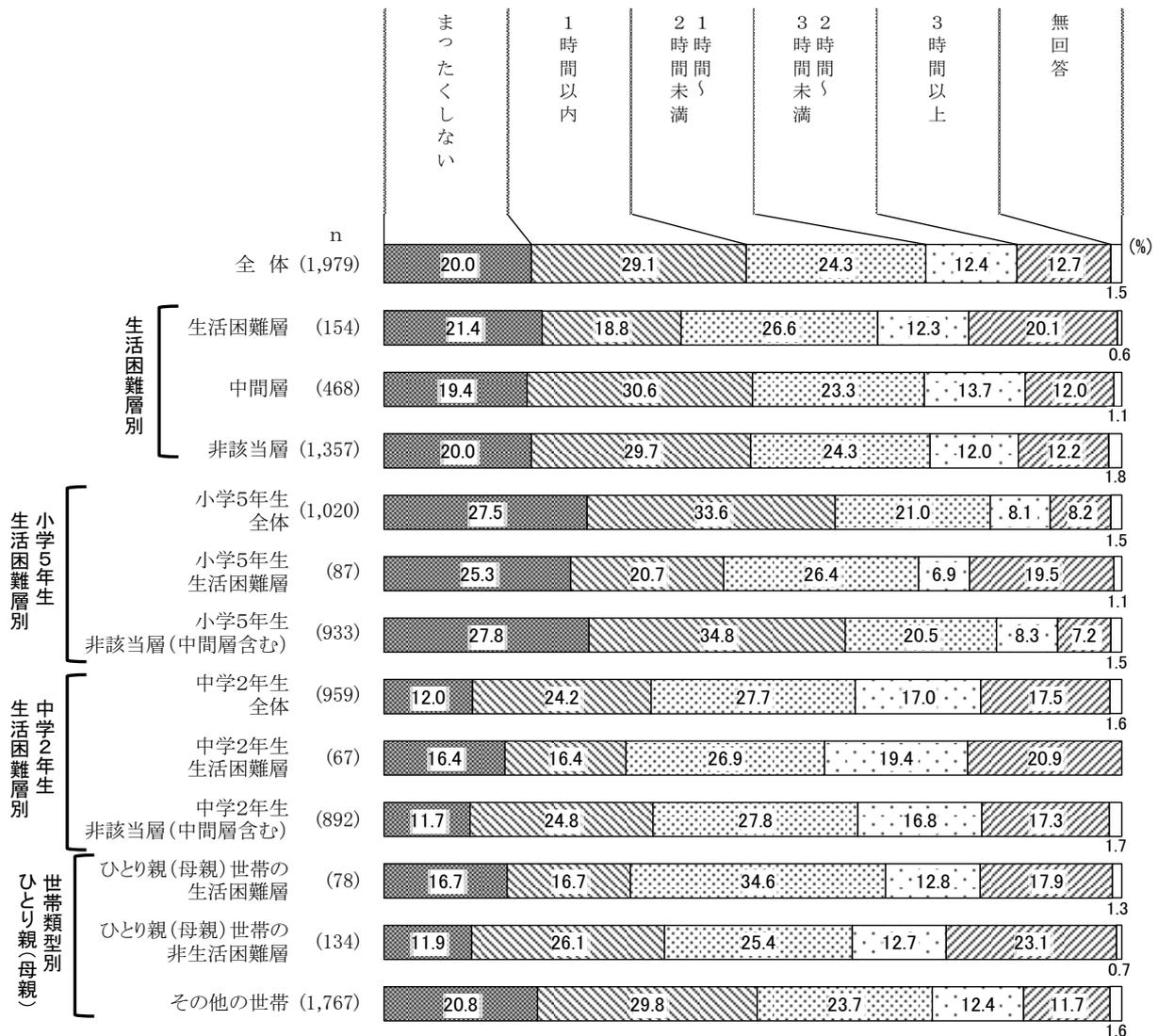
(小学5年生 中学2年生 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

「パソコン・スマホでインターネットやゲームをする」時間では、生活困難層は、「1時間以内」と回答した割合が低く、「3時間以上」と回答した割合が高い傾向があります。

年齢別にみても同様ですが、中学2年生は小学5年生よりも、非生活困難層の「3時間以上」と回答した割合が高くなり、生活困難層と非生活困難層の差が小さくなっています。

世帯類型別にみると、ひとり親(母親)世帯の生活困難層は非生活困難層と比べて「1時間以内」と回答した割合が低いです、「3時間以上」と回答した割合も低くなっています。

図表2-1 学校から帰宅後の各行動にかかる時間 パソコン・スマホでインターネットやゲームをする



どの段階まで進学したいですか。

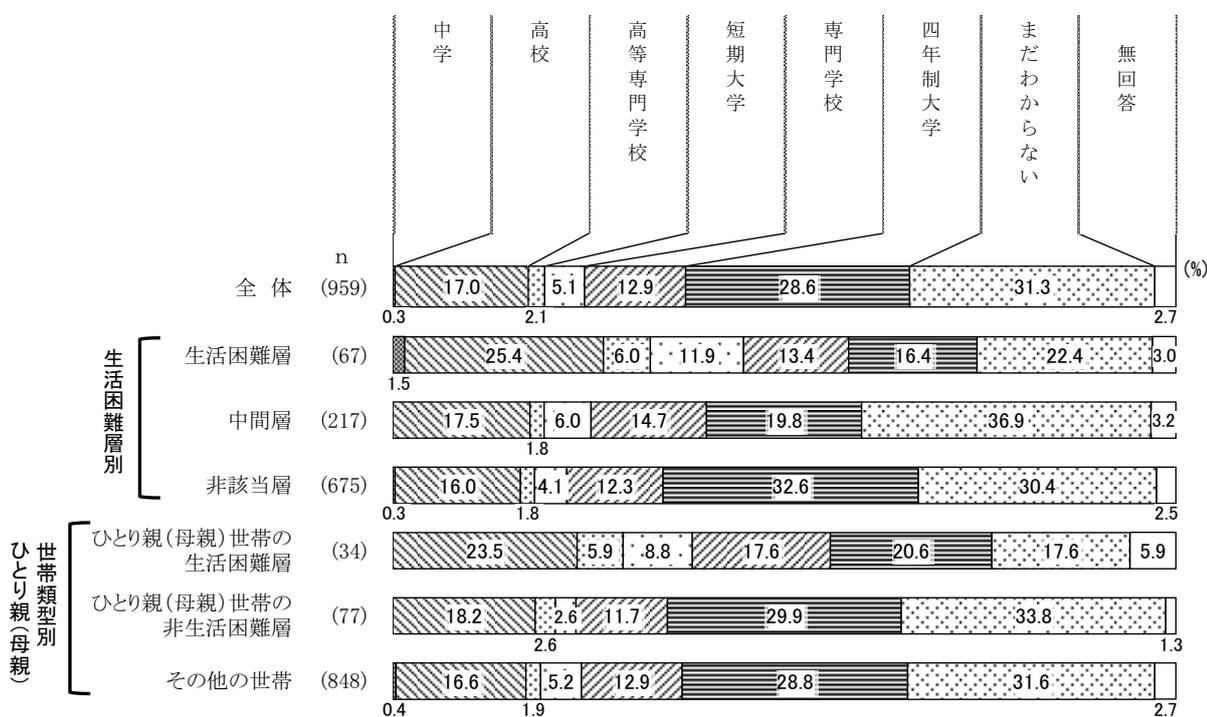
(小学5年生 **中学2年生** 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

中学2年生児童に進学段階の希望をたずねたところ、全体では「四年制大学」が28.6%、「高校」が17.0%である一方で、「まだわからない」が31.3%となっています。

生活困難の区分別にみると、生活困難層は非生活困難層と比べて「高校」の割合が高く「四年制大学」の割合が低くなっています。また、「まだわからない」の割合が22.4%と低くなっています。

世帯類型別にみると、ひとり親（母親）世帯の生活困難層では「高校」が23.5%、「四年制大学」が20.6%、「まだわからない」が17.6%と生活困難層の区分と同様の傾向がみられます。

図表2-2 進学段階の希望

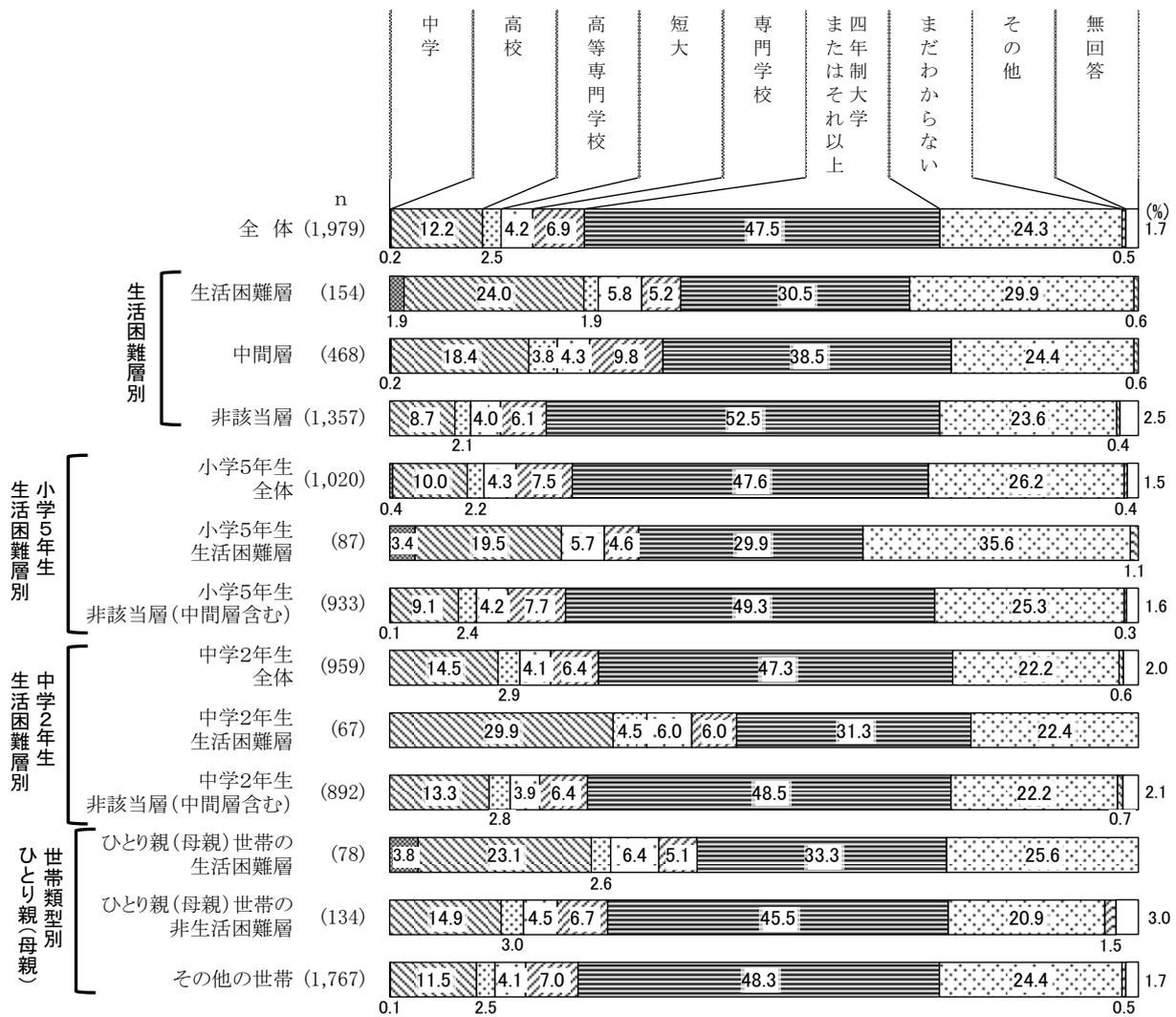


お子さんにどの段階までの教育を受けさせたいですか。

(小学5年生 中学2年生 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

保護者に希望する子供の進学段階をたずねたところ、全体では「四年制大学またはそれ以上」が47.5%で最も高く、次いで「まだわからない」が24.3%、「高校」が12.2%となっています。生活困難の区分別にみると生活が困難になるほど「四年制大学またはそれ以上」と回答した割合が低く、「高校」と回答した割合が高くなっています。年齢別、生活区分別でも同様の傾向がみられますが、小学5年生生活困難層は「まだわからない」が35.6%と高くなっています。

図表2-3 希望する子どもの進学段階



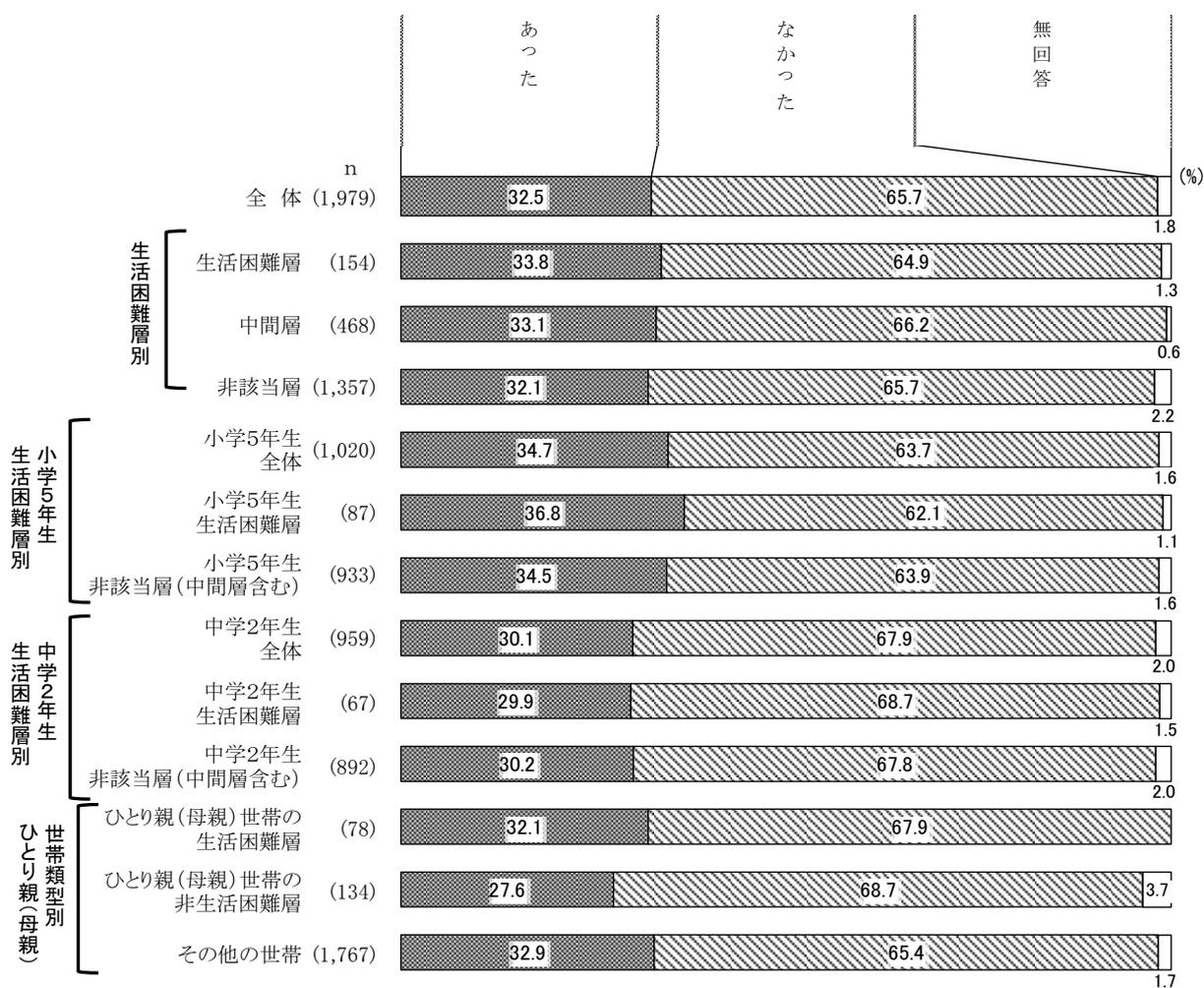
(3) 子どもの健康と自己肯定感

これまでに、お子さんを医療機関に連れていった方がよいと思ったが、実際には連れていかなかったことがありますか。

(小学5年生 中学2年生 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

保護者に受診の必要性を感じながらも子どもを医療機関に連れていかなかった経験をたずねたところ、「あった」と回答した割合は生活困難の区分別、年齢別、世帯類型別による違いは見られませんでした。

図表3-1 受診の必要性を感じながらも医療機関に連れていかなかった経験



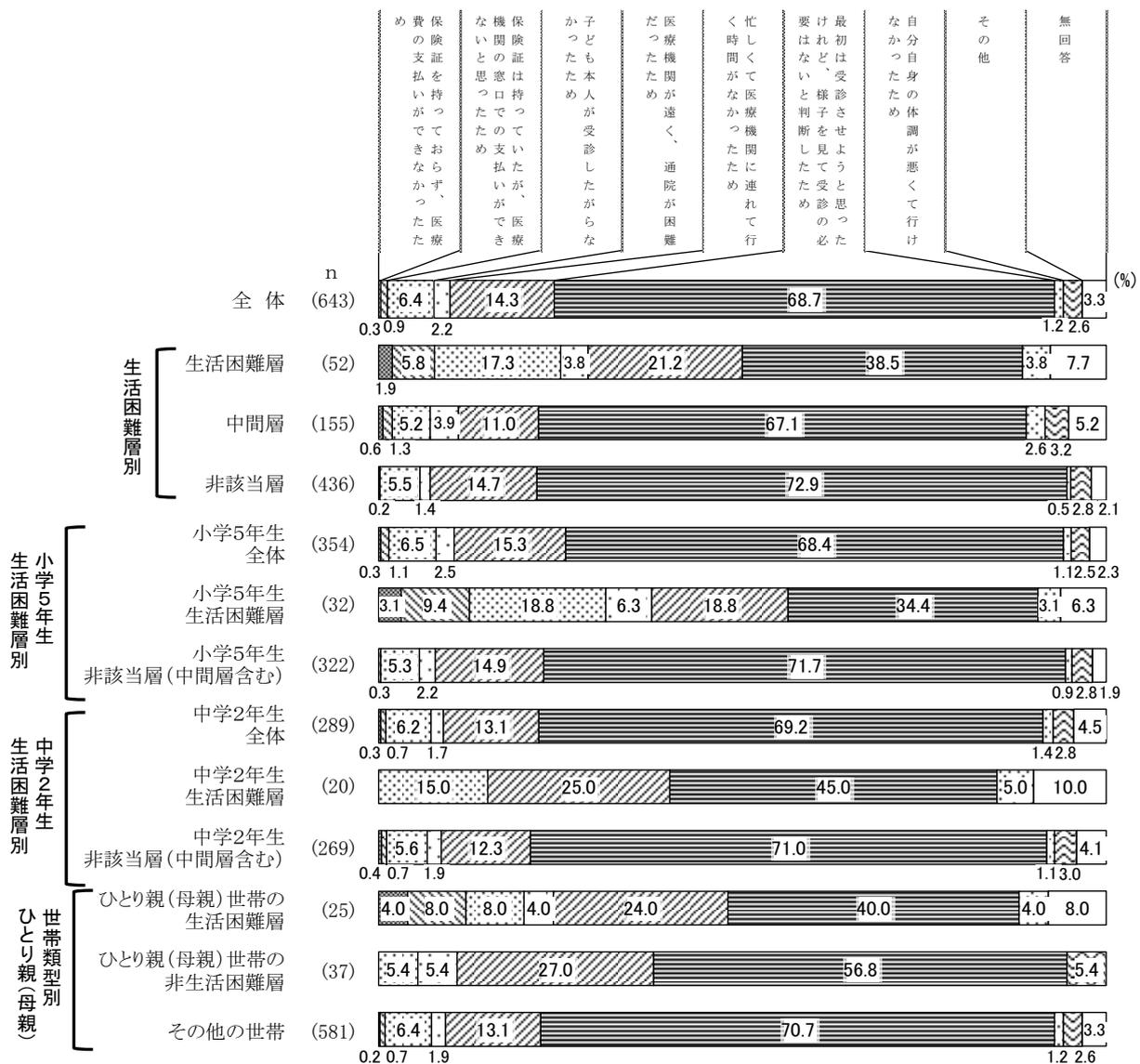
医療機関に連れていかなかった理由のうち、最も近いものに○をつけてください。

(小学5年生 中学2年生 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

受診の必要性を感じながらも医療機関に連れていかなかった経験が「あった」と回答した保護者に医療機関に連れていかなかった理由をたずねたところ、全体では「最初は受診させようと思ったけれど、様子を見て受診の必要はないと判断したため」が68.7%で最も高く、次いで「忙しくて医療機関に連れて行く時間がなかったため」が14.3%、「子ども本人が受診しなかったため」が6.4%と続きますが、生活困難層は非生活困難層と比べて「最初は受診させようと思ったけれど、様子を見て受診の必要はないと判断したため」と回答した割合が低くなっており、「子ども本人が受診しなかったため」「保険証は持っていたが、医療機関の窓口での支払いができないと思ったため」と回答した割合が高くなっています。

世帯類型別にみると、ひとり親(母親)世帯は生活困難層、非生活困難層共に「忙しくて医療機関に連れて行く時間がなかったため」と回答した割合が高くなっています。

図表3-2 医療機関に連れていかなかった理由



あなたは、次のことについて、どのように思いますか。

(小学5年生 中学2年生 小学5年生保護者 中学2年生保護者)

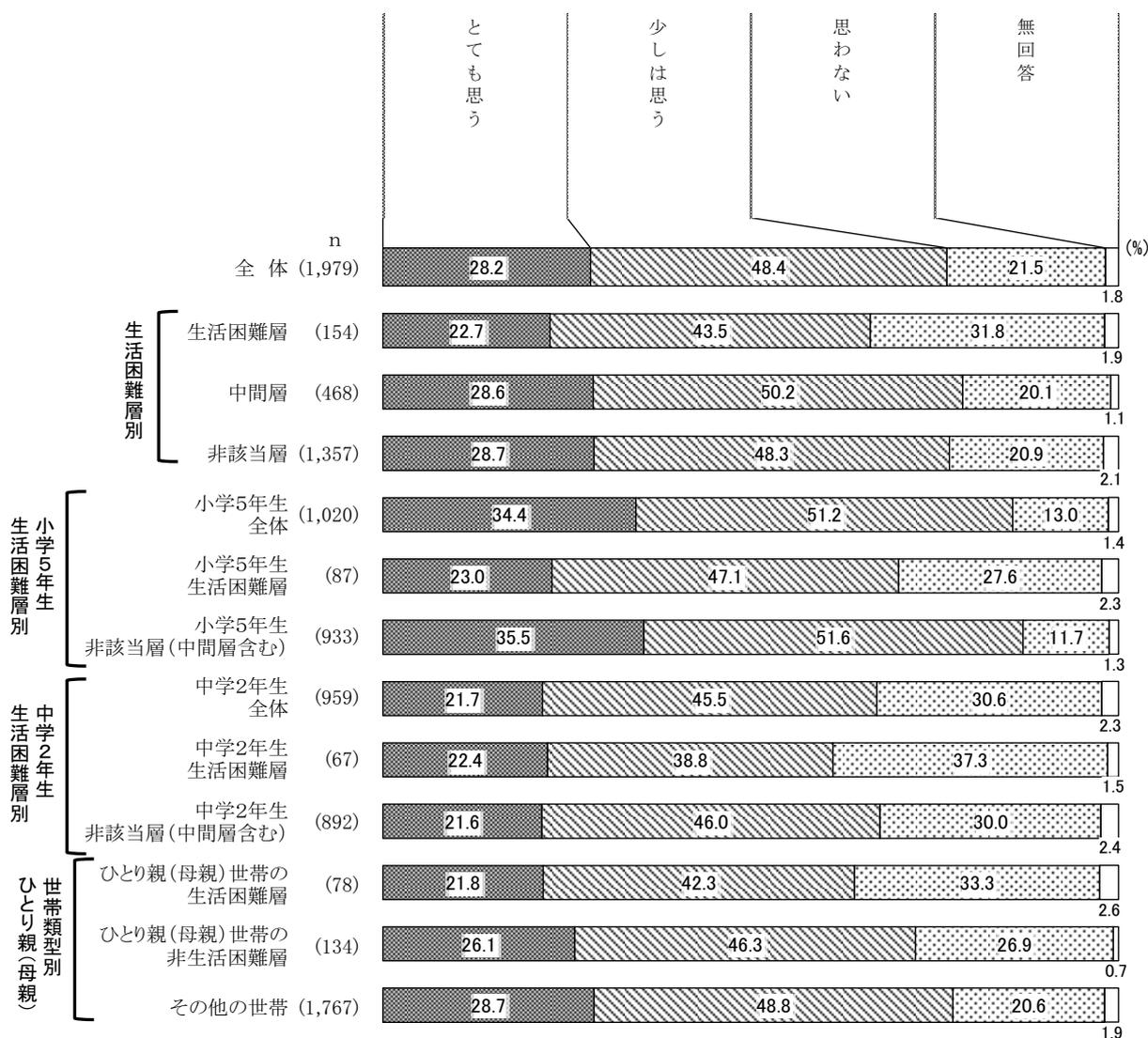
子ども自身にふだん考えていることについてたずねたところ、「自分には自信がある」「自分は人のために役立っている」について「とても思う」「少しは思う」と回答した割合の合計は、生活困難層で低くなっています。

年齢別にみると、小学5年生と比べて中学2年生は「とても思う」「少しは思う」と回答した割合の合計が低くなっています。

世帯類型別にみると、ひとり親（母親）世帯では「自分には自信がある」では、生活困難層は非生活困難層に比べて「とても思う」「少しは思う」と回答した割合の合計が低くなっています。

「自分は人のために役立っている」では、生活困難層が「とても思う」と回答した割合は非生活困難層が回答した割合よりも低いですが、「とても思う」「少しは思う」と回答した割合の合計では違いは見られません。

図表3-3 ふだん考えていること 自分には自信がある



図表3-4 くだん考えていること 自分は人のために役立っている

